

虚子記念文学館投句特選句

・令和五年一月

稲畑廣太郎 選

初風や水平線のなほ遠し

兵庫 大西美知子

来る筈の二月礼者を悼むのみ

大阪 石橋玲子

紅梅やこのひとよせの早かりき

神奈川 進藤剛至

掛け軸のにじむ墨色寒椿

兵庫 足立朱麻

吉兆を揺らし駅へと人の波

兵庫 入谷千恵子

美しき披講心に初句会

大阪 多田羅紀子

時を待ち時をほどきて冬桜

香川 葛原由起

煮凝てふ太平洋のエッセンス

兵庫 上岡あきら

めりめりととんど恵方へ倒れけり

兵庫 武田奈々

冬木達樹霜で枝が羽になる

兵庫 福田 涼

(青少年)

(青少年)

入選句・令和五年一月

六甲は雲に隠れて寒に入る	石川	辰巳昌彦	気の迷ひ払ふ一撃投扇興	大阪	林 曜子
断捨離に家軽くなる去年今年	兵庫	森岡喜恵子	初炭の香いよよ高まる淑気かな	鳥取	前田 千
遊ぶやうに俳句を詠みて去年今年	兵庫	平田 恵	東雲の赤き日輪淑気満つ	兵庫	槌橋眞美
転んでも怪我せぬほどに着膨れて	奈良	河村久美子	末の子の父らしくなり小豆粥	兵庫	辻 桂湖
万蕾の四温に応へ三分咲	石川	村上秀吾	初旅ややさしき母となりにけり	兵庫	高橋純子
父よりの布石の一書読初す	兵庫	山之口倫子	映画から抜け出しやうな冬帽子	兵庫	吉村玲子
寒の内汀子邸より水の音	兵庫	黒田千賀子	スケートやイナバウワーといふ記憶	兵庫	小杉伸一路
臘梅の雨粒に透く海の青	兵庫	川村ひろみ	山よりの風を流して川涸るる	兵庫	長安悦子
風の精白きささやき冬桜	徳島	奥村 里	獣臭の風に乗りくる初詣	奈良	堀ノ内和夫
風を切りかるたを弾く手の軌跡	兵庫	山田将大	寒燈にトルソーのごと街並木	兵庫	伊藤秀子
宇宙へと飛び発つ人へ初日出	京都	西村やすし	群青に冬の波立つ日本海	兵庫	岡本やすし
縁起よき寅の日となる初句会	兵庫	奥田好子	淡き陽に浴びて一輪花菜かな	兵庫	道中義臣
墨の香も炭の匂ひも吉書揚	兵庫	塚本武州	新年の句座満席の祝意かな	兵庫	金田八江子
大とんど校庭に龍立ちのぼる	兵庫	中村恵美	初夢やあの世の吾子の甘えくる	兵庫	ほりもとちか
早梅や明るき苑の一步とし	兵庫	玉手のり子	初場所や鬘肩力士の上手投げ	兵庫	藤井啓子
左義長にちやんばらの音加はりぬ	兵庫	武田優子	いち早く島の香よ水仙花	兵庫	三木雅子
餅花や客を上座に案内して	大阪	立入宮子	山と海のぞむ新居の初景色	兵庫	山崎渺美
白鷺の雅な一步旅始	兵庫	高野さち	豪雪の里出て遙か虚子館へ	新潟	安原 葉
光にも棘あるごとく寒の月	大阪	窪田由紀子	母に似て鼻たかだかや春著の子	東京	青川紅藤子
初旅や二十歳の恋のゆくへとは	兵庫	小林志乃	ラジオからラヴェルの調べ冬の月	兵庫	太平楽太郎
きかん気の遂に竹馬乗りこなす	兵庫	中井陽子	厚き地の層おぼえたる朽葉かな	三重	水越晴子
卵焼き花屑ひらり塩むすび	大阪	櫻淵桜陽子	日脚伸ぶ卓の豆菓子こぼれ落つ	兵庫	高市敦之
手入れされ庭水音の淑気かな	兵庫	辻田あづき	一人とるランチはキッシュ春隣	兵庫	西村みどり
七種や摘みしあの娘も母となり	兵庫	池田雅かず	庭しんとあり確りと牡丹の芽	兵庫	二瓶美奈子
転職といふ決断や初御空	兵庫	深尾真理子	新聞が今日は来る日か貞徳忌	奈良	豚々舎休庵
水仙に会のぞめきの解かれゆく	兵庫	永沢達明	残り火に合はす掌どんどかな	兵庫	福田光博
書初の特に元気な一枚目	石川	辰巳葉流	群青の潮流遠へ冬深し	愛知	小野 薫
美しき想ひ出語り初句会	兵庫	岩水ひとみ	片言の吾子のあいさつ福寿草	神奈川	小堀公美子
			待春の空へ記念樹枝ひろげ	兵庫	田村恵津子

ミラクルなトライのキラリ春近し	京都	杉森大介
愛しきやし炬燵の膝に三つ子の来	滋賀	近江堇花
寒月や不香の花は瑠璃色に	東京	木村緋舟
待春の俳磚の文字あををと	兵庫	阿曾宏之
寒明の今や遅しと葉芽花芽	石川	伊東弥太郎
指先に冬芽あたたか散歩道	神奈川	小林 心
えびす焼ならぶ列にも淑気満つ	兵庫	伊集院秀樹
初比叡擬宝珠に白き鳥の糞	兵庫	キートスばんじょうし
七福神巡りて蕎麦の温みかな	東京	宮村土々
喪の明けぬ館の門に福寿草	神奈川	平野孤舟
冬ざれや車窓にひとり目覚むれば	和歌山	中島紀生
まばたきの間も薄れをり冬茜	神奈川	金子三奈乃